

「安全教育を通して、

主体的に行動できる児童を地域とともに育む」

令和7年度 高知県学校安全総合支援事業（災害安全）

香美市教育委員会 拠点校 香美市立片地小学校

1 事業の目標

（1）モデル地域の現状及び安全上の課題

香美市は、県の北東部に位置し、物部川、国分川、吉野川の源流域から高知平野の北東部にあり、地形は、概ね1,000～1,800mの高峰が周囲にそびえることから急峻で、棚田、集落が広範囲に点在し、市域の約9割を占める森林の多くが、国定公園、県立自然公園等に指定されるなど自然が豊かで風光明媚な街である。

災害被害では、地震・集中豪雨による土砂崩れから河川の氾濫が起き、それによって、田畑や家屋への浸水の危険性が高い。特に、北部・南部の山間地は土砂崩れによる道路の寸断の恐れがあり、児童生徒の登下校時の安全等を確保することが課題となることがある。

また、香美市は、今から53年前に集中豪雨による土砂崩れで60名もの尊い人命が犠牲となった「繁藤災害」が発生した街であり、毎年7月5日には災害後整備された本災害の慰霊碑やモニュメントを設けた「繁藤災害追悼広場」で故人のご冥福をお祈りするとともに、災害から得られた教訓を後世に伝えるべく「繁藤慰霊祭」が執り行われている。

香美市は、平成31年度には市内全小・中学校がコミュニティ・スクール（以下、「CS」）となり、地域学校協働本部が児童生徒の見守り活動をはじめとする生活・交通安全や学校行事、授業支援などの支援体制や教育環境の整備に取り組んでいる。また、香美市少年育成センターの事業として各校に「やまびこ会」という児童生徒の見守りをする組織がある。学校のPTA活動でも朝の交通安全の立哨や校区の危険箇所の点検などに取り組んでおり、地域ぐるみで児童生徒の安全について見守る体制は整っている。

香美市では、本事業である高知県学校安全総合支援事業の指定を受け、令和3・4年度は舟入小学校、令和5・6年度は香長小学校を拠点校として、「高知県安全教育プログラム」等に基づく授業実践や危機管理マニュアルの見直しや研修をとおり、教職員の防災意識の向上など一定成果を上げてきている。しかし、児童生徒や地域の実態を適切に把握し、地域コミュニティと連携した活動を進めながら、日常の授業実践においても安全に対する意識、資質・能力を高めるカリキュラムマネジメントの充実については改善の余地がある。そのため、引き続き、各校の取組のブラッシュアップを図るための仕組みづくりを行う必要がある。

（2）モデル地域の事業目標

- 拠点校における学校安全の取組や推進体制を市内全小・中学校区等に普及するとともに、各校の安全教育担当教員が連携して、学校安全の取組を推進する。
- 「高知県安全教育プログラム」等に基づいた授業を実践することで、子どもたちが身の回りの危険を予測し、自らの危険を回避する力を身に付け、自分の命は自分で守り、安全に行動できる児童生徒の育成を図る。
- 学校・家庭・地域が連携を図りながら、地域全体で安全教育に取り組む体制の構築を図る。

2 モデル地域の取組の概要

（1）安全教育の充実に関する取組

ア 安全教育の充実に関する取組

「高知県安全教育プログラム」に基づき、安全教育においても、教科等横断的な視点で関連性をもたせながら、地域の特性や児童生徒の実情等、各校の実態に合わせた授業実践を行った。拠点校の公開授業や発表会、安全教育実践委員会等で得た知見を在籍校の校内研修等で周知・普及するという一連の取組により、学校安全に対する意識が高ま

り、自校の安全教育及び安全管理の取組の見直しにつながっている。また、安全教育に係る学習活動については、特別活動を中心に各教科・領域で行い、6年間の系統的な安全教育の充実を図った。

イ 安全教育の取組を評価する・検証するための方法について

全校で行う学校評価を活用し、安全教育に対する意識等の状況、成果・課題等を把握し、その結果を基にPDCAサイクルを回し、次年度以降の計画や対策を検討している。

また、年度当初に示した成果指標を項目としたアンケートを実施し、調査結果から見えた課題について改善策を検討する。

(2) 組織的取組による安全管理の充実に関する取組

今年度は「学校安全実践力向上出前講座」を活用し、各校の教頭・主幹教諭を対象に、危機管理マニュアル見直しワークショップを実施した。参加者はマニュアルを見直す際のポイントや手順を学び、現行のマニュアルに不備や改善点がないか確認することができた。

また、他校との情報共有を通じて、新たな対策や必要な修正に気づき、宮城県石巻市立大川小学校の教訓を得て、「気付いた時に修正する」という意識を高めることができた。今後もより実践的な内容となるよう、学校運営協議会でも協議し、定期的にマニュアルの見直しを行うことで内容の充実を図る。

平成28年度より毎年、香美市通学路安全対策連絡協議会を開催しており、通学路における児童生徒の安全を確保するため、生活安全・交通安全等の観点から危険箇所を総点検するなど、他の関係機関とも連携し安全対策を実施している。

(3) 学校安全推進体制の構築及び学校安全担当教員の資質向上に係る取組

市内全小・中学校の担当者及び教育委員会が安全教育実践委員会に参画し、拠点校の実践に学びながら、各校の学校安全担当教員の役割・重要性を確認し、各校の安全教育全般の取組の充実を図った。

拠点校である片地小学校での研究授業（7月）や研究発表会（10月）では、特別活動の授業を公開し、「児童に自分事として考えさせるための課題設定」や「学んだことをもとに意思決定する具体的な姿」について共有し、教科や領域の目標・ねらいとともに、安全教育の目標・ねらいを達成できるよう授業を構成することについて共通理解することができた。

また、安全教育実践委員会での協議や講話を通して、互いに連携を図りながら、学校・家庭・地域みんなで、子どもたちの安心・安全を守るという意識を高めることに繋げることができた。第1回安全教育実践委員会では、香美市防災対策課より防災行政無線について説明をうけ、使い方を知るとともに、香美市ハザードマップで各校が近隣の防災行政無線設置場所について確認を行うことができた。

(4) その他の主な取組について

6月23日に緊急地震速報を活用した訓練を実施した。この訓練では、放課後に地震が発生し、管理職が対応できない場合を想定し、学校施設の被害調査と教職員・児童生徒の安否確認について、事務職員がNTT特設公衆電話（災害時優先電話）で教育委員会に連絡するという内容で行った。報告を受けた教育委員会はホワイトボードへの記録と併せて、Googleスプレッドシート（共同編集）の一覧表に報告内容を記入するようにし、庁舎外にいる職員も各校の報告内容を確認できるようにした。また、閲覧権限のある管理職が報告内容を確認したことがわかるよう、シート内にチェック欄を設けた。

3月に予定している第2回目の訓練では、地震が発生し、固定電話・携帯電話の両方が使えず、NTT特設公衆電話（災害時優先電話）も使用できないという設定で、防災行政無線を利用する訓練を3学期に予定している。学校は防災行政無線を使って、香美市防災対策課へ連絡、教育委員会は報告を受けた内容を、ホワイトボードとGoogleスプレッドシートに記録し、香美市内各校の状況を一覧で確認できるようにする。

今後も学校と教育委員会が連携した防災訓練を定期的に行い、実際の災害や訓練の経験から得た課題を反映させた条件設定のもとで訓練を実施するだけでなく、訓練後の振り返りに基づいた見直しと改善を行っていく。

3 拠点校の取組

(1) 拠点校の目標

<学校教育目標>

見つけ 考え 学び合い とともにやりぬく 片地の子

<安全教育目標>

安全に関する知識と行動する力を身につけさせるとともに、学校・地域が一体となり、児童の危険回避能力や行動選択能力の向上をめざし、自他ともに安全と生命を守ろうとする態度を育成する。

<学年別重点目標～災害安全～>

- 1・2年 ○地震が来たらどうすればよいか理解し、行動しようとしている。
- 3・4年 ○どこにいても地震の揺れから身を守る行動をとり、避難をしようとしている。
○大雨、雷、竜巻等の危険を理解し、安全な行動ができる。
- 5・6年 ○どこにいても地震の揺れから身を守る行動をとり、避難することができる。
○大雨、雷、竜巻等の危険を理解し、安全な行動ができる。

(2) 具体的な取組

○安全教育計画の確認・危機管理マニュアルの見直し

年度初めに安全教育計画について確認を行った。各学年・各領域でのねらいを共通理解することで、全学年通して系統的に安全教育が進められるようにした。

また、危機管理マニュアルについては、熱中症対応ページに「発症時状況伝達様式」を追加するなど、順次加筆を行うとともに、夏期研修等の内容を受け、定期的に見直しを実施した。

○校内研修の実施

4月には高知県教育委員会事務局学校安全対策課より本事業についての説明を受け、研究の方向性について確認した。7月には、全校研5・6年生『これが大切！我が家の備え』（学級活動）の授業を香美市内の学校安全担当者に公開し、研究協議後は東部教育事務所の上田指導主事より学級活動の視点から、高知県教育委員会事務局学校安全対策課の山崎指導主事より、安全教育の視点からそれぞれご助言いただき、安全教育における児童生徒の目指す姿を連携校とも共通理解することができた。

夏期休業中には、10月には研究発表会に向けての指導案検討会を行い、東部教育事務所の上田指導主事・学校安全対策課の山崎指導主事に指導助言をいただいた。

○防災週間での取組

各学期に一週間の期間を設けて、学年毎の防災学習と全校での避難訓練を行った。昨年度まで複式学級もあったため、学び残しがないように、ブロックごとの防災学習として、学ぶ内容をA年度・B年度に分類し、6年間を通して計画的に学ぶことができるようにカリキュラムを作成している。

○地震の際の初期行動訓練（6月23日）

香美市教育委員会の主催で、放課後に管理職が不在の場合を想定し、地震発生時の初期行動訓練を香美市全体で行った。児童が校舎内に分散して残り、必ずしも担任がそばにいない状況下での想定をした。教職員が児童の安全確保、避難誘導、被害状況の確認・報告を的確に行えるように訓練をした。



○授業研究会（5・6年生）（7月10日）

事前の活動で児童にアンケートをとったところ、避難訓練等学校で地震が起きた際の備えは十分である実感をもっていたものの、家庭での備えが十分でないことや、学校外での防災について関心が低いことが明らかになった。このことを踏まえ、事前に普段家の中でよく過ごす部屋をICTで再現しておき、もしそこで地震が起きたらどうなるのかを想定することで、自宅で行える備えについて考えさせた。想定された状況に応じて、児童が自ら判断し、最適な行動を自己決定することをねらいとした。



○防災ミニキャンプ（9月20日）

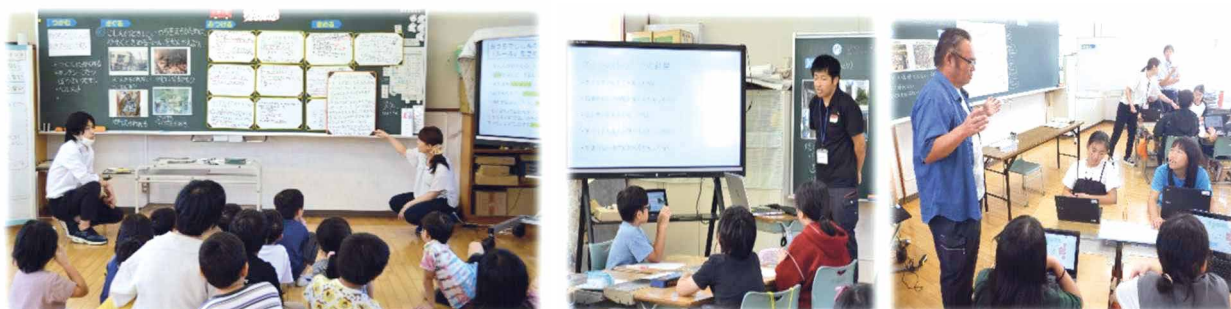
参観日に、防災ミニキャンプを実施した。地域の方々と連携し、保護者・児童・教職員と一緒に体験ブースを回り、体験を通して防災について学び合う機会とした。また、食に関する学習として、みそ汁の炊き出しを行い、備蓄されていたアルファ米と家庭から持参した缶詰を用いて、震災時の食事を想定した体験を行った。この活動を通して、災害時には「食」が心の支えとなる一方、食への配慮が行き届かないことで心理的な負担が生じる場合があることを学び、非常時を見据えた家庭での備えや心構えの大切さについて理解を深めた。



○研究発表会（10月9日）

研究発表会を開催した。香美市内の学校安全担当者だけでなく、県内の学校からたくさんの方に参加いただき、ブロックごとに学級活動の授業を公開した。その後の全体会では、片地小学校の研究内容を発表した。また、高知大学地域協働学部の大槻知史教授をお招きし、『防災における学校と地域の協働』という演題で講演をいただいた。

学年	内容	協力者機関等
1・2年	防災ルールを考えよう	地域の防災士
3・4年	どこにいても、地震の揺れから自分を守ろう	香美市防災対策課
5・6年	避難生活を考えよう	香美市防災対策課・地域の方



○地域への啓発(12月25日)

災害時の備えの重要性を学ぶ中で、子どもたちが「事前の備え」の大切さを強く感じ、その学びを日頃からお世話になっている地域の方にも伝えたいという思いから、子どもたち自身の手書きメッセージとともに、防災グッズを配布し、地域への啓発を行った。防災に関する学習を通じて、自分だけでなく、家族や地域の安全も守りたいという気持ちが育っている。家庭でも防災の備えを確認し、万が一の際に冷静かつ迅速に行動できるよう、今後も自主防災組織が実施する防災訓練への参加も呼びかけていく。



(3) 取組における成果と課題

<成果>

安全意識アンケート(児童対象)結果より

- ・成果指標①安全な生活を送るために、日頃から決まりを守って安全に活動しようとしている。【目標値：している 100% 結果 100%】
- ・成果指標②見守りに携わっている方々や地域・保護者の方を知っている。【目標値：知っている 100% 結果 100%】
- ・成果指標④：地震の避難訓練を行う際、自分は実際の地震が起きたという気持ちで真剣に取り組む事ができた。【目標値：できた 85% 結果 98.4%】

- 防災意識の向上(体験、自己決定の場面を通して自分事としてとらえる機会が多かった)
- 日常の関わりだけでなく、防災ミニキャンプでの体験活動を通して、保護者や地域の方と一緒に防災について学び、さらに関わりを深めることができた。
- その場限りの知識の学習ではなく、今後生きるもの多く、実践できた。(避難バッグや缶詰などの準備、地域との連携など)
- 特別活動(学級活動)で扱うことで、児童が自己決定できるようになってきた。

<課題>

安全意識アンケート結果より

- ・成果指標③どこにいても地震からの身の守り方を知っている。【目標値：知っている 90% 結果 77.6%→83.3%】

- 様々な場所や状況を想定し、地震から身を守る方法について考える機会がさらに必要である。
- 保護者への啓発をどのように行うか。
- 一年間でいろんなことをやろうとすると、広く浅くになってしまうので、6年間で学び落としががないように計画して行う必要性を感じた。

<今後の取組の見通し>

- 地域への啓発活動
- 防災ベンチのお披露目・炊き出し訓練(2月の参観日)
- 今日的な課題を受けた危機管理マニュアルの見直し
- 自主防災組織や関係機関と連携した安心・安全な学校づくり
- 学校の安全教育の取組の情報発信・啓発活動

4 事業の成果と課題

【成果】

事業の成果指標より「各学校において危機管理マニュアルの見直しや内容の周知などを行い、日頃の安全教育・管理や危機発生時における各教職員の役割について、共通理解を図っている学校の割合」、「学校安全に関する校内会議や研修等を実施している学校の割合」、「学校安全ボランティアや地域住民等の活動の状況を把握し、見守り活動等の登下校の安全対策について家庭や地域、関係機関等と連携・協働体制ができている学校の割合」において100%を維持できている。

夏期休業中には、学校安全担当者が高知県教育委員会主催の安全教育研修会に参加した。安全教育研修会のオンデマンドを校内研に活用し、各校においても震災への危機感が高まったことを受け、教頭・主幹教諭を対象に、令和7年度学校安全総合支援事業（学校安全に係る専門性向上支援事業）学校実践力向上“出前”講座を活用し、「危機管理マニュアル」見直しワークショップを実施した。マニュアルを見直す際のポイントや手順を学び、共通の視点で現行のマニュアルに不備や改善点がないかを確認することができた。今後も定期的に見直しを行い、学校運営協議会でも共有・検討いただくといったPDCAサイクルを確立し、内容の充実を図り、引き続き、危機管理への意識を継続かつ自主的なものになるよう取り組んでいく。

7月の安全教育実践委員会では、「家庭・地域と連携した安全教育の取組」について、各校の学校安全担当者と地域の方で構成されたグループで情報共有を行った。参加者からは「いざというときに子どもたちの命を守るためには、学校と地域が顔の見える関係でつながっていることが大事。日頃の関わりを大切にしたい。」「子どもたちに地域の行事や防災訓練にももっと参加してほしい」といった意見があった。防災について学びを深める中で、地域との関わり大切さや、防災訓練へ参加することの重要性に気付く子どもたちもたくさんいる。自主防災組織や市の防災対策課と連携した防災参観日等を、地域や保護者の方が参加しやすい休日に開催するなどして、地域や保護者も共に防災意識を高める機会をつくるよう、引き続き働きかけていく。

【課題】

「学校安全を推進するための学校安全担当教員（管理職以外）を校務分掌に位置付けている学校の割合」は90%となっている。校長会で事業の成果と課題についてお伝えする際にあわせて、第3次学校安全の推進に関する計画をふまえ、学校安全担当教員に、管理職以外の教員を位置付け、より実働的な学校安全体制の構築を図るよう再度周知する。「校区にある自主防災組織等と協働して防災訓練等を実施もしくは、それに参加している学校の割合」は50%となっており、昨年度と同じ割合となっているが、市防災対策課・自主防災組織と連携し、避難所開設・運営訓練を実施した学校が昨年度より2校増加した。CS間の連携や本市統一での体制づくりや取組等については、持続可能な取組となるよう、関係各所と協議しながら進めていきたい。

5 今後の取組の見通し

今回は災害安全について、重点的に取組を行ってきたが、今後も生活安全・交通安全を含め、総合的に学校安全について対策を講じていきたい。そのためにも、学校安全担当教員の役割を明確にし、学校安全担当教員が中心となって取組を進められるよう、校内外で協力する体制を整備し、学校・家庭・地域が連携する仕組みを確立する。また、学校生活全体を通して、児童・生徒自身も、香美市の一員として、自らの生命・安全について考え、自ら行動し、地域や他の人々へ貢献しようとする意識を育てていきたい。

学校安全の取組を市全体の安全へつなげていくためにも、市の防災対策課とも全体的なビジョンを共有し、一貫して取組を進めていく組織及び協力体制を整備することで、香美市全体で安心・安全なまちづくりを目指す。